



ZiDOMA data を利用しデータ移行ソリューションの旗手を目指す

ネットワークの挑戦

クラウドシフトへの要望に応えるために、データ移行ソリューションの確立を目指して様々な検証を実施。ZiDOMA data が持つ可能性に期待して ARI との協働に取り組む。

株式会社ネットワーク様



IT インフラストラクチャのソリューション・ディストリビューターとして、サーバやストレージ、そしてアプリケーションの仮想化など、次世代 IT インフラストラクチャ構築に必要な製品と技術を提供。1990 年 8 月 1 日創業。従業員数 498 名（2020 年 12 月末現在）

課題

導入済の社内ファイルサーバ（アプライアンス）において、旧 OS と旧ハードウェアと新モデルの世代の制約がありレプリケーション機能を使用したデータ移行機能が使用不可に。手動でコピー等の手段で、データ移行が方針として浮上したが 10TB を超えるあらゆる種類のファイルサーバデータを円滑に計画移行するソリューションが求められた。

導入メリット

Windows の GUI で簡単操作で直感的、タスクを作ってコピーするだけの手順でファイルサーバ移行が可能。移行操作も、簡単なことから情シス担当でプランニングし無事に実施。日本企業での開発で日本語問い合わせがある点もメリットの一つに。アクセス権絡みやコピーするフォルダ構成等も気軽に問い合わせる事ができ移行作業時に問題が発生しても速やかにツールの改修がされた。

株式会社ネットワークのミッション

3 年間主張し続けていた データ移行ソリューションの確立

IT インフラ構築に必要な製品を提供するディストリビューターとして、そして社内の多くの技術者を要する Sler として、数多くの実績を上げてきた株式会社ネットワーク。

同社の SI 技術本部ストレージ基盤技術部に所属する重原氏は、今後のネットワークにおける重要なミッションとして「データ移行ソリューション

の確立」を掲げていました。

「近年は全世界的なクラウドシフトが進んでいます。ただ、クラウドもオンプレミスも、結局のところ運用次第であり、どちらが正しいというものでもありません。ですが、ストレージを運用する際には、クラウドでもオンプレミスでも、必ずなんらかの問題が発生します。それを解決するのがデータ移行ソリューションです」（重原氏）。

データがたまり続ければ、使用頻度の低いデータをアーカイブする必要があります。システムの開発時にはテスト環境と本番環境の間でデータ移行

株式会社ネットワーク
SI 技術本部
ストレージ基盤技術部
次長
重原 智幸氏



株式会社ネットワーク
SI 技術本部
ストレージ基盤技術部
係長
古賀 友弘氏



が発生します。つまり、システムを運用していく以上、データ移行は必ず発生します。

ただ、データ移行には常に困難がつきまといます。例えば「想定していた以上に時間がかかる」「アクセス権の問題で移行できないファイルがある」「ファイルやフォルダのタイムスタンプが変わってしまう」などがあります。特に大きな問題となるのが、これらのトラブルが発生した時に、誰に相談すればいいかが分からない点です。

一般的に、ストレージにはデータ移行のツールが付属していますが、それはあくまでも「そのメーカーのストレージに対応した」ツールであり、他メーカーのストレージとの移行で正常に稼働するとは限りません。もしトラブルが発生した際に、どちらのメーカーに問い合わせたとしても、他メーカーの製品についてまでトラブル対応をしてくれる可能性は低いでしょう。「私達は、ストレージに関しての知見と経験は豊富で、その点については自信を持っています。ですがツールの中身まではさすがにわからない。どうすればいいかと頭を悩ませていた時に出会ったのが ZiDOMA data でした」(株式会社ネットワーク SI 技術本部 ストレージ基盤技術部 次長 重原 智幸氏)。

ZiDOMA data のデータ移行にロマンを感じて……

ネットワークでは、顧客に対して適切なソリューションを提案するために、様々な製品について検証確認を繰り返しています。ZiDOMA data についても検証が行われていましたが、どちらかという「ファイル分析」としての認識が強かったが、その中で重原氏だけは「ZiDOMA data は、分析よりもデータ移行の方にロマンを感じていた」とのこと。またある日、ネットワーク社内でファイルサーバのリプレースに伴う、データ移行の話が持ち上がりました。

「既存のファイルサーバも新しいファイルサーバも同じメーカーの製品だったので、専用のツールを利用してデータ移行をする予定でした。ただ、そのためには既存ファイルサーバの OS をバージョンアップしなければならず、しかもその難易度が相当高いことが判明しました。そこで満を持して、以前から重原が推していた ZiDOMA data の利用を検討することになりました」(株式会社ネットワーク SI 技術本部 ストレージ基盤技術部 係長 古賀 友弘氏)。

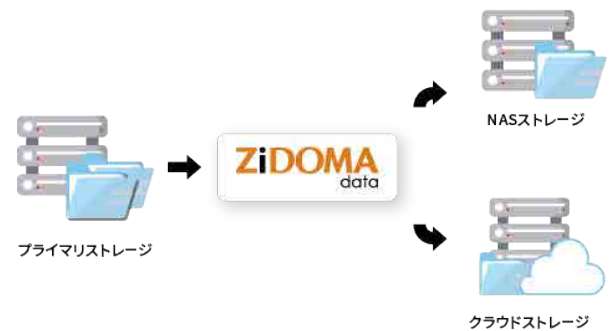
この移行プロジェクトは、ZiDOMA data の評価もかねて行われました。そのため、ARI とも密に連絡を取り、要件や課題を洗い出し、一つ一つクリアしていったそうです。

「ZiDOMA data のお陰で、バージョンアップなどの変更が不要となり、作

業工数はもちろん、管理者の心理的負担も大きく減りました。ファイルサーバへのデータ移行が完了した後も、組織変更・人事異動によるデータの移動作業などがあり、定期的に ZiDOMA data を利用しています」(重原氏)。

データ移行にはトラブルが付き物です。実際、本プロジェクトにおいても、小さなトラブルは発生していました。しかし、それらについても ARI のサポートにより大きな問題へと至る前に解決しました。

「問題が見つかる都度チャットで報告するのですが、数時間後には解決策を提示してくれることもありました。正直な話をすると、あまりの反応の早さに若干引いてしまったくらいです(笑)」(古賀氏)。



ZiDOMA data による移行イメージ

サービスのディストリビューターとして データ移行ソリューションの提供を目指す

今後、ネットワークは、「IT インフラのディストリビューターだけではなく、お客様の課題をトータルで解決するサービスのディストリビューターを目指す」とのことです。そして、データ移行ソリューションは同社がサービスディストリビューターを目指す上で、重要な役割を担うこととなります。

「最近では、クラウドシフトの必要性が各所で叫ばれています。その際、ポイントとなるのがクラウドへのデータ移行です。ネットワークでは新年に今年の抱負を語る場があるのですが、私はここ3年間ずっと、”これからはデータ移行が重要となり、そのために有効なソリューションが ZiDOMA data だ”と言い続けているんですよ(笑)。私達と ARI さんとは、得意分野の棲み分けもできているので、今後お互いに Win-Win の関係が築けると思っています。是非、一緒にデータ移行のロマンを追求していきたいですね」(重原氏)。

AR アドバンステクノロジ株式会社

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 1-14-16 野村證券ビル 8F
TEL : 03-6450-6080 URL : <https://ari-jp.com/lp/zidoma/>
プロダクトセールス担当 ari-marketing@ari-jp.com

 **A.R.I.**
AR advanced technology, Inc